

話し合い活動の手引き

§ 6 計画委員会を育てる

■司会者育成のポイント

話し合いを進める役を担う「司会者」は、大変重要な役割です。6年間を通じて計画的に指導していかなければなりません。低学年ではどのように育てるか、中学年以上はどうするか、その育成のポイントをまとめてみます。まずは、低学年でのポイントです。

【低学年のポイント】

まず、低学年の子どもたちが司会を行う場合は、次のようなことに気をつけるとよいと思っています。

< 1年生初期 >

教師が司会を務めます。そして、他の教科同様、問答形式を進めるとよいでしょう。

< 1年生後半 >

教師が司会を行い、指名係を全員に交替でやらせてみましょう。その中で、「議事の進行」という司会の役割に気づかせていくとよいでしょう。

< 2年生後半 >

教師と児童でいっしょに司会をします。司会メモなどのマニュアルを活用させるとよいでしょう。

ということで、**低学年の司会育成のポイント**は次の4点です。

《楽しくのびのびと発言できる雰囲気の学級会にしよう》

話し合いは明るい雰囲気を進めたいものです。そのような雰囲気の中で、どんな子ども自由に発言できるようにしていきたいものです。

《教師が見本を示そう》

低学年の場合は、司会の進め方をまず教師が示すということが大切です。

《子供を賞賛し、自信をつけさせよう》

教師がやって見せながら、時々子どもたちに真似をさせてみます。上手くできたときには、とにかく誉めることです。

《経験を通して学ばせよう》

教師が見本を示しながらも、やっぱり子どもたちが自分でやってみないことには身に付きません。

続いて、**中学年以上でのポイント**です。

【中学年以上のポイント】

中学年以上では、基本的に計画委員会が自分たちで司会ができるようにしていく必要があります。そこで、中学年以上の司会者育成のポイントを5つにまとめてみました。

《教師がやってみせよう》

司会者の力量は、学年が上がるごとに育っていく、とは限りません。どれだけ経験してきたかがネックになるからです。中学年以上でも、必要に応じて「教師がやってみせ

る」ということも大切です。教師がやってみせることで学ばせたいものは、次のとおりです。

◇声の大きさ（調子）

◇意見が対立したときの進め方

◇意見が出ないときの発言の促し方

◇意見をまとめたり，つなげたりする方法

◇小集団⇄全体の討議のさせ方

◇採決の仕方

《何をどれだけやるか示そう》

話合いの事前指導で，話合いの見通しを持たせることが大切です。特に「折り合いをつける」ことが予想される話合いでは，どのように終わればいいのか，事前にシミュレーションさせておくことも必要です。

《決まったことを宣言させよう》

話合い中，司会者が宣言したものが決定事項であることを教えます。そのことによって，司会者の役割を指導するのです。

《計画委員会に参加させよう》

司会者と計画委員会が別組織の場合，計画委員会の話合いに司会者も参加させましょう。その中で，どのように会を進めていけばいいのかを考えさせることが大切です。

《日常の教育活動で司会経験を多くさせよう》

司会経験というのは，学級会だけでできるものではありません。日常生活の中にたくさんあります。例えば朝の会，帰りの会の司会。学習における発表会の司会。イベントにおける司会などなど。そういう経験をたくさん積み重ねることが大切だと思います。

■司会者に身に付けさせたい力

司会者育成の際に，「司会者にはどのような力が必要なのだろうか」ということも考えておく必要があります。そこで，「司会者に身に付けさせたい力」についてまとめてみましょうと思います。

《中学年で育てたい力》

★はっきりとよく聞こえるように話す。

司会をするに当たって，はっきりと大きな声で話すことは最低必要なことです。このことは，司会の役が回ってきたときだけではなく，普段の発表のときから意識させるようにしたいものです。

★発言をよく聞き，反応を素早くする。

議事を進行していくのですから，どのような意見が出されたのかよく聞く必要があります。そして，一つ一つの意見に素早く反応していけるようにさせたいものです。そのことが話合いをスムーズに進行していくカギになります。

★公平な態度で冷静に処理する。

これがもっとも難しいことかもしれません。司会者といえども同じ子どもですから，意見に対して好き嫌いがあるのが当然です。しかし，それ以上に「学級全体のことを考えて」ということはもっと大事なことを指導する必要があります。

★決め方についての見通しをもつ。

議題について，どのような結論に導こうとしているのか，ある程度の見通しをもっておくことが必要です。計画委員会での話合いの段階で，話合いに見通しがもてるように助言してあげる必要があります。

★時間を守る。

話し合いは基本的に45分で終わらせるべきだと考えています。だらだらと話し合ってもいい解決方法は生まれません。そのための時間配分をきちんと行ない、それを守るようにします。

★決定事項を確認する。

みんなの意見によって決定したものはそれなりの意味を持ちます。何が決まって、何が決まっていないのはどれかをきちんと把握させておきたいものです。

《高学年で育てたい力》

高学年では、中学年での指導事項に4つほど付け加えて指導したいと思っています。

☆少数意見を尊重して、議事を進める。

少数意見の中には大事な意見も含まれていることがあります。その発言者の意図をしっかりと聞くことによって議事を進めるようにさせたいものです。

☆問題を正しくつかんで意見を求める。

今話し合っていることは何なのかをきちんと把握させたいものです。そのことが話し合いを違った方向に持っていけないために必要なことです。これは、表面だけの意見を出し合い多数決で終わる、ということのを避けることにつながり、さらに話し合いが深まることにつながります。

☆意見を分類、整理、要約してみんなに伝え、能率的な進行をする。

話し合いが盛り上がってくるにつれ、いろいろな意見が出始めます。中には、だらだらと意見を述べる子どもも出てきます。たくさんの意見が出ることであります。そんなとき、意見を分類、整理、要約してみんなに伝えるということが大事になってきます。

☆和やかな雰囲気での議事を進める。

話し合いそのものが和やかな雰囲気に進むかどうかは、司会者の雰囲気づくりの技にかかっています。高学年になれば、そのような雰囲気づくりにも気を配るように仕向けたいものです。

■書記を育てる手立て

【低学年】

低学年では、司会者同様、まず先生がやってみることから始めたいと思っています。

〈1年生前半〉

この段階は、司会といっしょに教師が書記も行います。子どもたちには板書したことを記録用紙に書かせます。記録用紙として、マス目の大きい原稿用紙がよいでしょう。教師の励ましの言葉を必ず添えて、学級会コーナーへ掲示してあげましょう。

〈1年生後半〉

話し合いの柱を教師が板書します。話し合いの大切なところを教師が短冊に切った画用紙に書き、それを係の子に黒板に貼らせます。ノートへはそのまま書かせましょう。

〈2年生前半〉

必要に応じて教師が手をかしながら、黒板書記の係がすべての記録をとるようにさせます。その際、決定事項と意見の区別をつけさせるようにするといいようです。

〈2年生後半〉

計画委員会の話し合いの段階で、教師が事前に板書内容を指導します。本時はできるだけまかせるようにしたいものです。

【中学年】

中学年になると、計画委員会そのものを子どもたちに任せて活動させることが大切になってきます。書記についても、次の3つのことについて指導します。

***「第〇回」と書かせる。**

自分たちの話し合いが積み上げられていることを意識させるために大切なことだと考えます。これは、板書するのではなく、こういう掲示物を準備しておくという方法も使えます。

*** 提案理由は提案者の考えをそのまま書かせる。**

少々長くなる場合もありますが、提案理由は話し合いの中で対立が起こった場合に立ち返る必要が生じることがあります。そこで、提案者の思いをそのまま書かせるようにします。

*** 話し合いの小見出しは話し合いの順序に従って書かせる。**

意見を分類して書くというのはなかなか難しいものです。そこで、まずは話し合いの順序に従って書かせることを指導したいと思っています。

【高学年】

高学年では、児童の実態と能力に応じて段階的な指導のめやすを持っておきたいものです。

*** 話し合いの主な意見を記録し、決定事項に印をつけさせる。**

高学年になると、議題によっては様々な意見が出るようになります。そこで、出された意見をすべて書くのではなく、「まとめながら書く」ということが必要になってきます。

*** 同じような意見を一つにまとめたり、線で結んだりして、結論が出るまでの経過を分かりやすいようにまとめさせる。**

慣れてきたら、記録を図式化することを指導したいものです。色チョークや線を使って、どういう経緯で話し合いが進んでいったかをまとめさせるようにしたいと思っています。

*** ノート記録には、未解決の問題や教師からの指導助言も記録させ今後の活動に生かさせる。**

ノートへの記録は、今後の参考にもなりますので、未解決の問題に印を付けたり、教師からの指導助言を記録させたりしておくといいです。

これらのことを、事前の計画委員会の中で指導することも必要ですが、その時間が取れないことも多々あります。そこで、実際の話合いの中で助言を通して育てていくことも視野に入れておくことが大事です。